

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金額ヲ検査シタルトキハ其檢定書一通ヲ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金額ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 收入官吏ハ毎年度經過後五箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ歳入ノ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スヘシ

第九十六條 歳入ノ事務管理廳ノ部長若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ毎年度經過後二箇月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證據書類ハ毎年度經過後一箇月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受タル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ依リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ仕拂命令官ニ送付シ支拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如ハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書ハ各別ニ提出ヲ要セス但各省ノ臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第一百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第一百二條 會計法第二十八條ニ依リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人トナストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第一百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ得

第一百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省預金局通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ

第一百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金額命シタル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第六百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保證人ヨリ徴收スヘシ

第六百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證金ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第六百八條 出納官吏ハ其身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ爲メ其身元保證金額定期ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サハルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第六百九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六箇月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サハルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定期ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第六百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第六百十一條 會計法第三十一條ニ依リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ケル爲メ毎年度經過後四箇月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受ケル爲メ毎月各金庫出納内證書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ其翌月中

ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ依リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第六百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第六百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第六百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額收入濟額收入未濟額ヲ登記スヘシ

第六百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第六百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區別シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ

第六百十七條 削除
第六百十八條 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第六百十九條 各年度經過後八箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第六百二十條 本規則ニ依リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程樣式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第六百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲ケル諸計算書仕拂命令領收證ノ樣式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二百二十二條 帳簿ノ格式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ
第二百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
本規則ト抵觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○官立學校及圖書館會計法

朕官立學校及圖書館會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
法律第二十六號 (明治二十三年三月二十七日)

官立學校及圖書館會計法

- 第一條 文部省直轄學校及圖書館並農商務省所管東京農林學校ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生
スル收入授業料寄附金及其他ノ收入ヲ以テ其歳山ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄附シタル動産不動産
及歲入殘餘ヨリ成ルモノトス
- 第三條 教員事務員ノ俸給給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務所費管轄費
雜支出其他寄附者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館ノ歳出トス
- 第四條 學校及圖書館ノ寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別
ニ之ヲ整理スヘシ
- 第五條 政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提
出スヘシ
- 第六條 學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ
施行ス

○官立學校及圖書館會計規則

朕官立學校及圖書館會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
勅令第五十三號 (明治二十三年三月二十七日)

官立學校及圖書館會計規則

第一章 資金

- 第一條 資金ヲ分テ左ノ二種トス
第一 維持資金
第二 特別資金
- 維持資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス
特別資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス
- 第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ
- 第三條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限リ用途指定者ノ同意ヲ以テ元金ヲ使用スルコト
ヲ得
- 第四條 資金ニ屬スル現金ハ總テ預金局ニ寄托スヘシ
- 第五條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産公債證書其
他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘントスルトキハ所轄大臣ハ大藏大臣ニ協
議シテ之ヲ定ムヘシ但寄附ニ係ル不動産ハ寄附者ノ承諾ヲ得ルニアラサルハ離權スルコトヲ得ス
- 第六條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ
第二章 歳入歳出
- 第七條 左ノ諸収入ヲ以テ學校ノ經常歳入トス

- 第一 政府ノ支出金
- 第二 授業料及試験料
- 第三 寄附金
- 第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金
- 第五 土地家屋ノ貸付料
- 第六 實驗用生産品賣拂代
- 第七 雜收入
- 第八條 左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歲出トス
 - 第一 教員事務員ノ俸給諸給及旅費
 - 第二 學術用器具器械圖書及標本費
 - 第三 授業費及試験費
 - 第四 獎學費
 - 第五 生徒費
 - 第六 事務所費
 - 第七 營繕費
 - 第八 雜支出
- 第九條 左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歲入トス
 - 第一 政府ノ支出金
 - 第二 書籍借覽料
 - 第三 寄附金
 - 第四 公債証書及諸証券ノ利子又ハ配當金

明治二十六年勅令
第二百二十六號
以テ改正

同
七

- 第五 土地家屋ノ貸付料
 - 第六 雜收入
 - 第十條 左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歲出トス
 - 第一 事務員ノ俸給諸給及旅費
 - 第二 圖書費
 - 第三 閱覽室費
 - 第四 事務所費
 - 第五 營繕費
 - 第六 雜支出
 - 第十一條 經常歲出ハ經常歲入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歲出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム
 - 第三章 豫算決算
 - 第十二條 歲入歲出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
 - 第十三條 所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目録ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ
 - 第十四條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
- 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歲入確定額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ年度經過後二箇月以内ニ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
- 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌月十五日マテニ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第十五條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシノ用途ヲ明示スヘシ

第十六條 第四章 收入支出

第十七條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘシ所管大臣ハ學校若クハ圖書館ノ支部長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ

仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第二章第三款ノ例ニ依ル

第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏ハ收入官吏トシテ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長圖書館長又ハ其ノ支部長之ヲ監督スヘシ
學校又ハ圖書館ハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此ノ仕拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十九條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第二十條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス
在外國人學術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買採集若クハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其委託ヲ受ケタル在外國人學術家又ハ學術研究旅行者ヲ受取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以テ現金ヲ交付スルコトヲ得

明治三十一年勅令第二百九十九號ヲ以テ改正
同上
同上

學術試験品標本品購入費獎學費生徒費事務所費ニ限リ所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保証金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得

所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第二十一條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支山ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又ハ其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキカ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤヲ調査スヘシ

第二十二條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ歳出豫算明細書ニ定メタル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 支拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得

第二十四條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ノ發シタル仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十五條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月三十日ヲ限トス
定額戻入ニ關スル規定ハ第二十五條ノ三ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第六章第三款ノ例ニ依ル各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第二十六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキハ其仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絶スルハ會計規則第四十三條第四十四

五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル

第二十八條 收入官吏ハ其入收ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日マテニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ
第五章 年度繰越歳入殘餘

第三十條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支出請求ナキカ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未済又ハ仕拂未済トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第三十二條 所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスルトキハ年度經過後一箇月以内ニ繰越計算書ヲ作り必要ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第三十三條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三十四條 特ニ用途ヲ指定シタル寄附金ニシテ別途整理ヲ要スルモノ、毎年度内ニ仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシ殘額ハ總テ翌年度ニ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラザリシモノハ第三十條仕拂未済金整理ノ例ニ依ル但本條ノ支出殘額及仕拂未済金ハ寄附者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第三十五條 第三十條ニ依リ繰越シタル支出未済及仕拂未済ノ金額ニシテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第三十六條 毎年度ノ歳入中仕拂濟額及繰越額ヲ扣除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ
第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第三十七條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ本條第二項ニ定ムル期限ノ外總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル
會計規則第九十五條ノ例ニ依リ收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ事務管理廳ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第八章 帳簿

第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未済額歳出ノ豫算額仕拂元受高ニ出濟額ヲ登記スヘシ

第四十條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額收入未済額ヲ登記スヘシ

第四十一條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額仕拂請求書受領濟額ヲ登記シ又仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ

第四十二條 會計主任ノ官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ一切其取扱タル現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第四十三條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第四十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監理官トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス本規則ト抵觸スル命令ハ總テ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

參照

勅令第二百二十六號ニテ改正ノ各條項ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

○帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則

勅令第九十二號 (明治三十一年五月十七日)

帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則

第一條 文部大臣ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ帝國大學資金所屬森林原野ノ貸渡及其產物ノ賣却ヲ爲スコトヲ得

- 一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料ヲ賣渡ストキ
 - 二 見積借地料一箇年二百圓ヲ越エサル森林原野ヲ貸渡ストキ
 - 三 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡ストキ
 - 四 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ
 - 五 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ
 - 六 部分木ヲ其仕付人ニ賣拂フトキ
- 第二條 文部大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該人札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾后三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ全一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトコトヲ得

○歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續

文部省訓令第九號 (明治三十一年九月五日)

北海道廳 府縣
 文部省直轄各部 東京學士會院
 震災豫防調查會 除ク
 測地學委員會

文部省所管歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續並官立學校及圖書館會計歳入歳出年度科目誤記訂正手續左ノ通之ヲ定ム

- 歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續
- 一 歳入ノ測定官ニ於テ納額告知書又ハ納額ノ通達書發付ノ後科目(經常ト臨時トノ誤記モ)所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ科目又ハ所管廳訂正書ヲ收入官吏ニ送付スル事
 - 二 收入官吏ニ於テ第一項ノ科目所管廳訂正書ヲ受ケタルトキハ直チニ收入簿ニ訂正ノ記入ヲ爲シ其記入ヲ爲シタルトキハ既ニ其月ノ計算締切後ナルトキハ訂正シタル月ノ收入報告書ニ之ヲ掲記シ事由欄内ニ其事由ヲ詳記スル事
 - 三 收入官吏ニ於テ科目所管廳訂正書ヲ受ケタル收入金ハ既ニ納額告知書若クハ納付書ニ依リ金庫ニ現金ヲ領收セシモノナルトキ又ハ收入官吏ニ於テ現金拂込書ノ科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ直チニ收入官吏ヨリ關係金庫ニ其科目所管廳ノ訂正ヲ請求スル事
 - 四 金庫ニ於テ第三項ノ訂正請求若クハ明治二十四年大藏省令第十一號ニ依リ歳入年度ノ訂正請求ヲ受ケタルトキハ直チニ現金出納原簿歳入金各廳内譯簿其他關係帳簿ニ之ヲ訂正ノ記入ヲ爲ス事
 - 五 仕拂命令官ニ於テ仕拂命令集合仕拂命令ヲ發行シタル後年度科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ年度科目所管廳訂正書ヲ金庫ニ送付スル事
 - 六 金庫ニ於テ第五項訂正書ノ送付ヲ受ケタルトキハ直チニ支出簿其他關係帳簿ニ訂正ノ記入ヲナス事
 - 七 歳入歳出ノ誤記ヲ訂正スルハ總テ翌年度七月三十一日限リトス
 但金庫ニ於テ訂正ヲ爲スハ翌年度七月三十一日以前訂正請求書ヲ受ケタルモノニ限ル

八 官立學校及圖書館會計歲入歲出年度科目誤記訂正手續ハ前各項ニ準據スルモノトス

○現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ差出スヘキ計算書提出期限

文部省訓令第四號 (明治三十一年八月一日)

北海道廳 府縣

會計規則第九十八條ニ據リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ差出スヘキ計算書ハ毎月一回トシ其翌月十日以内ニ仕拂命令官ニ之ヲ提出スヘシ

○會計ニ係ル官吏任命方

文部省訓令第五號 (明治三十一年八月一日)

北海道廳 府縣

當省主管ノ職出ニシテ會計規則第八十四條第九十一條及第百條ノ場合ニ於ケル検査員及其他ノ官吏ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命スヘシ

○文部省所管出納官吏身元保証金取扱規則

文部省訓令第六號 (明治三十一年八月一日)

北海道廳 府縣

當省所管出納官吏身元保証金取扱規則左之通相定メ明治三十一年九月一日ヨリ施行ス

文部省所管出納官吏身元保証金取扱規則

第一條 出納官吏ノ所屬長官ハ左ノ標準ニ依リ出納官吏ノ身元保証金額ヲ算出シ之ヲ當該出納官吏ニ達スヘシ

取扱額	身元保証金額
五百圓以上千圓未満	二十五圓
千圓以上一萬圓未満	五十圓
一萬圓以上五萬圓未満	百圓
五萬圓以上十萬圓未満	百八十圓
十萬圓以上五十萬圓未満	二百七十圓
五十萬圓以上八十萬圓未満	三百五十圓

第二條 出納官吏ノ所屬長官ハ前條身元保証金總額ノ上ハ第一號書式ニ依リ直ニ左ノ事項ヲ報告スヘシ

- 一 部局名及所在地名
- 二 取扱金額並ニ其科目
- 三 身元保証金額
- 四 當該出納官吏ノ官氏名並ニ其就職年月日

當該出納官吏交轉ノ場合ニ於テハ前職者ノ官氏名並ニ解職ノ年月日及事務引繼年月日ヲ併セテ報告スヘシ

第三條 出納官吏會計規則第百三條ニ依リ現金ヲ以テ身元保証金ヲ納付セントスルトキハ其現金ヲ金庫ニ預ケ入レ其保管証書ヲ得之ニ第二號書式ノ納付書ヲ添ヘ所屬長官ヲ經由シテ文部大臣ニ納付スヘシ

數職ヲ兼マル出納官吏身元保証金ハ各職ニ區別シテ納付スヘシ

第四條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ第三號書式ノ登記請求書ニ通テ調製シ所屬長官ヲ經由シテ文部大臣ニ送達スヘシ

第五條 文部大臣ハ前條ノ申出ニ依リ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ地方長官ニ命シ登記法第七十一條ノ

事項ヲ代理セシムルモノトス

第六條 土地ノ書入証書ニ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 會計規則第百三條但書ニ依リ現金ニ代用ナル公債証書ハ記名トシ利札付ノ儘之ヲ金庫ニ預ケ入

レ其保管証書ヲ得之ニ第五書式ノ記入証書ヲ添へ所屬長官ヲ經由シテ文部大臣ニ納付スヘシ

第八條 出納官吏身元保証金ヲ納付シタルトキハ文部大臣ハ其納付金額ニ對シ第六號書式ノ納付濟証ヲ

調製シ所屬長官ヲ經由シテ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ

第九條 出納官吏土地若クハ公債証書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テハ明治二十三年勅令第四號第

三條及第四條ノ計算ニ依リ身元保証金額ニ對シ過剩ヲ生スルコトアルモ其儘納付スルハ妨ケナシ

第十條 出納官吏公債証書ヲ以テ現金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債証書ヲ預ケ

入レタル金庫ニ於テ其利札ヲ受取ルヘシ

第十一條 出納官吏會計規則第百二條第二項ニ依リ保証人ヲ立テ身元保証書ノ一部若クハ全部ノ免除ヲ

請ハントスルトキハ第七號書式ノ願書ニ市區町村長ノ証明ヲ受ケタル保証人資産調書ヲ添へ所屬長官

ヲ經由シテ文部大臣ニ進達スヘシ

身元保証人ニ於テ前條資産調書ニ記載シタル財産ノ全部又ハ一部ヲ離權シタルトキハ出納官吏ハ所屬

長官ヲ經由シテ文部大臣ニ上申スヘシ

第十二條 出納官吏前條ノ認可ヲ得タルトキハ其保証人ヲシテ第八號書式ノ身元保証書辨償引受証ヲ調

製セシメ所屬長官ヲ經由シテ文部大臣ニ進達スヘシ

第十三條 出納官吏會計規則第百十條ニ依リ身元保証金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第九號書式ノ請求書ニ身

元保証金納付濟証ヲ添へ所屬長官ヲ經由シテ文部大臣ニ進達スヘシ但保証人ヲ立テタル場合ニハ第十

號書式ノ身元保証金辨償引受証書下戻請求書ヲ進達スルモノトス

第十四條 文部大臣前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ所屬長官ヲ經由シテ保管証書 書入証書又ハ引受証

書ヲ出納官吏ニ返付スルモノトス但土地ニ係ルモノハ文部大臣其書入証書ヲ地方長官ニ送付シ登記法
第二十三條ノ事項ヲ代理セシメ書入ノ解除ヲ爲シタル上之ヲ返付スルモノトス
出納官吏前項ノ返付ヲ受ケタルトキハ直チニ其領收証書ヲ調製シ所屬長官ヲ經由シテ文部大臣ニ進達
スヘシ
(書式ハ略ス)

○金庫出納事務規程ニヨリ送付スル歳出金月計對照表等證明ニ
關スル取扱手續ノ件

文部省訓令第八號 (明治三十二年五月三十日)

文部省所管經費仕拂命令官
文部省直轄各郡仕拂命令官

金庫出納事務規程ニヨリ送付スル歳出金月計對照表及歳出仕拂未滿繰越金支出月計對照表證明ニ關スル
取扱手續ハ明治三十二年度以降明治三十二年大藏省訓令第四十一號ニ準據スヘシ

○文部省ニ於テ施行スル學校及圖書館ノ工事請負者資格

文部省令第三號 (明治三十一年二月三日)

文部省ニ於テ施行スル學校及圖書館ノ建築又ハ修繕工事ノ請負競争ニ加ハラントスル者ハ會計規則第六
十九條第一項ノ外尚ホ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス

●縣會計規程

高知縣訓令甲第八十九號 (明治三十年六月二十三日)

知事官房
 内務部
 警察部
 警務署
 警察分署
 監獄支署
 監獄支署
 立獄支署
 縣立學務所
 郡役所

明治二十七年三月 高知縣訓令甲第四十六號縣會計規程左ノ通改正シ本年七月一日ヨリ施行ス

縣會計規程

第一章 總則

- 第一條 毎年度所屬ノ歳入歳出ヲ出納スルハ翌年度四月三十日限トス
- 第二條 毎年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度五月十日迄ニ完結スヘシ
- 第三條 各年度歳入中ノ過誤納ハ其徴收額中ヨリ下戻シ歳出中ノ過誤渡ハ其ノ定額ニ戻入ルモノトス但過年度ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二章 歳入歳出ノ年度所屬
- 第四條 歳入ノ年度所屬ハ其ノ徴收シ又ハ收納スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度トス
- 第五條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル
 - 一 公債ノ元利息給ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度
 - 二 缺損補填又ハ過年度ニ係ル諸拂戻其拂戻又ハ補填ノ決定シタル日ノ屬スル年度

- 三 俸給手数料旅費ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ依リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ
- 五 特ニ定メタル事件ニ對シ豫算シタル補助費ノ類及第五十二條ノ契約ニ係ルモノハ其ノ豫算ノ屬スル年度
- 六 傳染病豫防費教育費ノ類及前年度ノ契約ニシテ其事業ト共ニ豫算ヲ翌年度ニ繰越シタルモノハ仕拂ノ確定シタル日ノ屬スル年度
- 七 前各號ニ掲ケル類別ニ入ラザル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 第三章 豫算豫備費支出、科目流用
- 第六條 警察部長監獄署長及内務部各課長ハ各其主管ニ屬スル歳入ノ見込額ヲ算定シ歳入概計書ヲ調製シ前年度七月三十一日迄ニ之ヲ内務部長ニ送付スヘシ
- 第七條 警察部長監獄署長及内務部各課長ハ各其ノ主管ニ屬スル經費ノ需用額ヲ算定シ經費概計書ヲ調製シ前年度七月三十一日迄ニ之ヲ内務部長ニ送付スヘシ
- 第八條 歳入ノ見込額ハ前々年度三ケ年度三ケ年度ノ實收平均額ニ據リ其ノ平均額ヲ得ル能ハサルトキハ經過年間ノ平均額ニ依リ之ヲ算出スヘシ但シ平均額ニ依リ難キ事實アルトキハ豫メ知事ノ決裁ヲ請フヘシ左ニ列記シタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依リ算出スヘシ
 - 一 地租割、戸數割、家屋稅ハ前年度四月一日ノ地租額、戸數及建坪
 - 二 臨時歳入財産收入請願巡查費納付金學費償還金ハ事實ノ豫定
- 第九條 歳出ノ需用額ハ前々年度三ケ年度ノ實收平均額ニ依リ其平均ヲ得ル能ハサルトキハ經過年間ノ平均額ニ依リ之ヲ算出スヘシ
- 左ニ列記シタルモノハ各其ノ定ムル所ニ依リ算出スヘシ

一 定員アル体給、被服費、食費及手當ハ其ノ定員
 二 臨時歳出、市町村交付金豫備費年金借入金利子公債証書買入代ハ所要ノ豫定
 第一項及第二項第一號ニ依リ難キ事由アリテ増額ヲ要スルトキ又ハ事業ノ伸縮ニ關スルモノハ豫メ知事ノ決裁ヲ請フヘシ

第十條 歳入概計書及經費概計書ハ明治二十四年八月應第七十七號達ニ準據シ之ヲ調製シ歳入ノ種類歳出所要ノ理由並計算ノ基ク所ヲ明ニスル爲メ参考書ヲ添付スヘシ

第十一條 内務部長ハ歳入概計書及經費概計書ニ基キ歳入歳出豫算ヲ調製シ前年度九月十日迄ニ知事ノ決裁ヲ請フヘシ

第十二條 豫備費ノ支出ヲ要スルトキハ主管課ニ於テ其所要ノ理由ヲ具シ計算書ヲ製シ知事ノ決裁ヲ請フヘシ

第十三條 歳出豫算中各項各目ノ金額ヲ流用セントスルトキハ主管課ニ於テ其理由ヲ具シ流用計算書ヲ製シ知事ノ決裁ヲ請フヘシ

第四章 收入

第十四條 縣稅及其他ノ歳入ハ收入命令官ノ命令ニ依リ出納吏之ヲ收納スルモノトス但シ特別ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第十五條 出納吏ノ收納シタル金錢ハ即日縣金庫ニ拂込ムヘシ但第十七條ノ場合ハ此限ニアラス

第十六條 出納吏ニ於テ收納シタル金錢ノ内過納誤納ニシテ下戻ヲ要スルモノアルトキハ總テ歳出支出ノ例ニ準シ取扱フヘシ

第十七條 出納吏歳入及其他ノ收入ヲ領收シタルトキハ其領收証書ヲ納入ニ交付スルモノトス

第十八條 縣金庫ノ設置ナキ地ノ出納吏歳入及其他ノ收入ヲ領收シタルトキハ毎月一回若ハ二回知事指定ノ金庫ニ拂込ムヘシ

第五章 支出

第十八條 仕拂命令ハ縣ニ對シ正當ナル債權者若ハ其ノ代理人ノ爲ニ之ヲ發ス

左ノ各號ノ經費ニ限リ主任ノ官吏及吏員又ハ特ニ命令シタル銀行ニ委託シ現金ノ仕拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ヲ爲スコトアルヘシ

一 縣債ノ元利拂

二 郡役所警察署警察分署監獄支署及縣立學校ニ於テ仕拂ヲ要スル經費

三 臨時ニ設置シタル事務所ノ經費

四 直接ニ施行スル工事ノ經費

五 縣金庫設置ナキ地ニ於テ仕拂ヲ要スル經費

第十九條 左ニ掲クル經費ハ各其所要ニ應シ概算渡ヲ爲スコトヲ得

一 政府ヨリ直ニ購入スヘキ公債証書代價

二 府縣聯帶支辨ニ係ル費用

三 訴訟ノ提起ニ要スル豫納金

四 市町村衛生補助費

五 郡ニ對スル土木補助費

六 機密費

七 旅費

第二十條 現金前途ハ左ノ區分ニ依ル

一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一ケ月分ノ豫定費額

二 臨時ノ費用ニ係ルモノハ仕拂差支サル限成ルヘク分割シタル豫定費額

三 直接ニ施行スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ千五百圓以内

第二十一條 工事ノ經費ハ左ノ場合ヲ除ク外更ニ同一ノ主任官吏及吏員ニ現金ノ前渡ヲナサス

- 一 前ニ仕拂タル金額三分ノ二以上仕拂濟證明アリタルトキ但シ仕拂濟證明未濟ノ金額ヲ合シテ千五百圓ヲ限度トス
- 二 前ニ仕拂タル金額千五百圓未滿ニシテ更ニ仕拂ヘキ金額ヲ合シテ千五百圓ヲ越ヘサルトキ
- 第二十二條 經費ノ仕拂ヲ要スルトキハ主管課長ニ於テ支出命令案ヲ具シ之ニ必要ナル書類ヲ添ヘ知事ノ決裁ヲ請フヘシ
- 第二十三條 知事ハ前條ノ決裁ヲ爲シタルトキハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ向テ支出命令ヲ發付シ同時ニ主管部署長ヲシテ其金額氏名ヲ縣金庫ニ通知セシム
- 支出命令ニハ支出ノ証憑ニ必要ナル書類ヲ添付ス
- 第二十四條 支出命令ニハ債權者若ハ其代理人ノ氏名仕拂ヘキ金額支出科目年度番號ヲ記載ス但シ支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債權者ニ對シ集合支出命令ヲ發シ別ニ各債權者ノ金額氏名表ヲ添付ス
- 現金前渡ヲ支出命令ニハ前途ヲ受クヘキ官吏及吏員ノ資格氏名 銀行ナレハ前渡ヲ爲スヘキ金額支出科目年度番號ヲ記載ス
- 第二十五條 支出命令ハ一目毎ニ之ヲ發ス但現金前渡ノ命令ハ一欸毎ニ之ヲ發シ項目節別ヲナスノ必要アルトキハ金額ヲ明記シタル仕譯書ヲ添付ス
- 第二十六條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ支出命令ヲ受ケ調査ヲ了ヘタルトキハ調査濟ト記入シ別ニ仕拂切符ヲ調製シテ之ヲ發付スヘシ但數人ノ債權者ニ對シ集合支出命令ナルトキハ仕拂切符ニ金額氏名表ヲ添ヘ縣金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 第二十七條 出納吏ノ縣金庫ニ向テ發スル仕拂切符及引出切符ノ効力ハ即日限トス但會計事務ヲ管理スル官吏ノ其所在地外縣金庫ニ向テ發スル仕拂切符ハ此限ニアラス
- 第二十八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏及吏員ハ支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債權者ニ對シ集合引出切符ヲ發スルトコトヲ得但其ノ手續ハ第二十六條但書ヲ準用ス

第二十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ其仕拂濟金ノ内返納ヲ要スルモノアルトキハ總テ歲入收納ノ例ニ準シ取扱フヘシ

第三十條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ翌年度四月三十日迄ニ其仕拂ヲ了スル能ハサル支出命令アルトキハ五月三日迄ニ之ヲ知事ニ返還スヘシ

第三十一條 旅費ノ概算渡ヲ受ケタルモノハ歸廳后五日以内ニ其ノ月額ニ係ルモノハ毎翌月三日限り旅費精算書ヲ製シ本廳ニ在テハ知事ニ其他ニ在テハ仕拂ヲ受ケタル出納吏ニ提出スヘシ

第六章 決算

第三十二條 警察部長監獄署長及内務部各課長ハ各其ノ主管ニ屬スル歲入明細書歲出明細書ヲ調製シ其豫算ニ對スル増減ノ理由ヲ明ニスル爲參考書ヲ添付シ翌年度五月三十一日迄ニ會計事務ヲ管理スル官吏ニ送付スヘシ

第三十三條 歲入歲出ノ決算書ハ豫算ト同一ノ體様ニ依リ之ヲ調製シ其成績ヲ明ニスル爲説明書ヲ添付スヘシ

第七章 事業ノ經營及物件ノ賣買貸借

第三十四條 事業ノ經營及物件ノ賣買貸借ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ隨意ノ契約ニ依ルトコトヲ得

- 一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入又ハ借入ル、トキ
- 二 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 三 特別ノ技術家ニ命スルニ非ラサルハ製造シ得ベカラサル製造品及器械ヲ買入ルトキ
- 四 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 五 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府又ハ縣ノ管理ニ係ル生産又ハ製造

物品ヲ直接ニ買入ルトキ

六 額面金額千圓ヲ超ヘサル公債證書ヲ買入ルトキ

七 臨時急施ヲ要スル爲工事ノ施設又ハ物品買入借入ヲ競争ニ付スル限ナキトキ

八 百圓ニ超エサル工事ノ施設又ハ物件ノ買入借入ヲナストキ

九 再度ノ入札ニ付スルモ豫定價格ニ達セサルトキ

十 競争ニ付スルモ競争者ナキトキ

十一 縣外ノ各地ヨリ買入ルハアサレハ適當ノ用品ヲ得難キトキ

第三十五條 契約ニ依リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハント

スルトキハ當該主任ヨリ實地調査書ヲ提出セシムヘシ

郡市町村土木補助費ニ就テモ亦前項ノ例ニ依ル

第三十六條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價

ノ十分ノ七ヲ限度トス

第三十七條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若ハ其契約ヲ結ハントスル者アルトキハ其工事ニ

就テハ二年以來其物品供給ニ就テハ一年以來從事スルコトヲ證明セシムヘシ

第三十八條 競争入札ニ加ハラントシ若ハ落札ノ上契約ヲ結ハントスル者現金又ハ公債證書ヲ以テ保證

金ヲ納メシムヘシ

第三十九條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

一 競争ニ加ハラントスル者ハ入札金額百分ノ五以上

二 契約ヲ結ハントスル者ハ落札金額ノ百分ノ十以上

第四十條 落札ノ上契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ縣ノ所得トスルモノトス

第四十一條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第四十二條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少クモ

五日以前ヨリ揭示又ハ新聞又ハ其他ノ方法ヲ以テ成ルベク廣ク公告スベシ

第四十三條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

一 競争入札ニ付スル事項

二 契約書案ヲ示ス場所

三 競争執行ノ場所日限及時刻

四 入札ノ保證金額

第四十四條 競争入札ヲ行ハントスルトキハ其競争入札ニ付スル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價

格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第四十五條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

第四十六條 左ニ列記スル各號ニ該當スルモノハ其ノ入札ヲ無効トスヘシ

一 保證金ヲ納メサルモノ

二 第三十七條ノ證明ヲ爲ササルモノ

三 競争ニ付セラレタル事項ノ調査及契約書案ニ署名捺印セサルモノ

四 代理人ニシテ委任狀ヲ有セサルモノ

五 開札場所ニ出席セサルモノ

六 入札ノ分明ナラサルモノ

七 入札ニ署名捺印セサルモノ

第四十七條 開札ノ上豫定シタル價格ニ達セサルトキハ直ニ再度ノ入札ヲ行フヘシ

第四十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價ノ入札人ヲシテ直ニ再度ノ入

再度ノ入札ヲナスモ尙同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第四十九條 落札人契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ

第五十條 工事及物件ノ賣買貸借ノ契約書ニハ其ノ契約セントスル事項ノ細密ナル設計仕譯落成期限種類品質受渡期限保證金額契約違背ノトキ保証金ニ對スル處分其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ但一口百圓未滿及第三十四條第十一號ノ隨意契約ニハ左ノ書類ノ一ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得
一 請負人ノ署名捺印セル承諾書
二 商業上ノ習慣ニ從ヘル往復書

第五十一條 隨意契約ノ場合ニ於テハ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第五十二條 豫算ノ確定シタルトキハ年度ノ開始ヲ待テ契約ヲ爲ス能ハサル事情アルモノニ限り特ニ年度開始以前ニ於テ後年度ニ屬スル契約ヲナスコトヲ得

第五十三條 本章ニ定ムルモノ、外物件ノ賣却貸付ニ就テハ縣有財産管理法ノ規程ニ依ル

第八章 出納吏

第五十四條 會計事務ヲ管理スル官吏收入ヲ取扱フ官吏及吏員現金前渡ヲ受ケタル官吏及吏員ハ總テ出納吏ト稱ス
本廳ニ於ケル收入支出ノ事務ハ會計事務ヲ管理スル官吏之ヲ取扱フモノトス

出納吏ハ金錢ノ出納ニ就キ一切其ノ責任ヲ負ズ但現金ヲ取扱フ出納吏ハ其ノ保管ニ就テモ亦同ヲ

第五十五條 出納吏ハ其ノ責任ニ屬スル會計ニ就キ自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得ズ但知事ノ命令ヲ以テ特ニ其代理者ヲ定メタルトキ其代理者ノ所爲ニ就テハ本條ノ限ニアラス

知事ノ命シタル出納吏代理者其代理シタル所爲ニ就テハ第五十四條第三項ヲ適用ス

第五十六條 出納吏交替若ハ轉免死亡ノトキハ事務ノ引繼ヲナスヘシ但シ前任出納吏死亡若ハ事故ニ由

リ自身ニ引繼ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ其代理者若ハ知事ニ於テ特ニ命シタル臨時代理者其引繼ヲナスヘシ

第五十七條 出納吏ハ毎月其ノ取扱ヒタル收入支出ノ報告書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ會計事務ヲ管理スル官吏ニ送付スヘシ但交替ノ場合ハ事務引繼後五日以内トス
現金ヲ取扱フ出納吏ハ別ニ現金拂込仕譯書ヲ添付スヘシ

第五十八條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ報告書ニ依リ記帳ヲ了シ其ノ月十五日迄ニ之ヲ主管課ニ送付スヘシ
主管課ハ前項ノ報告書ヲ調査シ其月末日迄ニ之ヲ縣會計検査委員ニ送付スヘシ但工事ノ仕拂ニ就テハ竣工ノ上一目論見毎ニ出來形精算表ヲ調製シテ之ヲ提出スルモノトス

第五十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ毎月取扱ヒタル收入支出ノ報告書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ縣會計検査委員ニ送付スヘシ

第六十條 縣金庫所在地ノ出納吏ニシテ現金前渡ヲ受ケタルトキハ即日其ノ現金ヲ縣金庫ニ預ケ込ミ仕拂ヲ要スル都度引出切符ヲ調製シ之ヲ發付スルモノトス

第六十一條 現金ヲ取扱フ出納吏ハ堅牢ナル金庫ヲ備ヘ又ハ確實ナル方法ニ依リ現金ノ保管ヲ爲スヘシ前項ノ保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スルコトヲ得ス
出納吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ其ノ現金ヲ縣現金ト同一庫中ニ分別藏置スルコトヲ得

第九章 縣金庫 印鑑

第六十二條 縣金庫ハ縣會計ニ屬スル現金ヲ保管出納スル所トス

縣金庫ハ之ヲ廳下ニ置キ其支部ヲ監獄署内及各郡役所内ニ設ケシム
本規程中縣金庫トアルハ縣金庫及其支部ヲ總稱ス

第六十三條 知事收入命令官及出納吏ハ其印鑑ヲ所屬縣金庫ニ送付スルモノトス

第七條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ルモノ及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト二十日ヲ踰ルモノハ俸給ノ半額ヲ減ズ但公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及暑中ノ休暇ヲ賜ハル者ハ此ノ限ニ在ラス

豫備 備又ハ補充兵役ニアルモノ及歸休兵ニシテ召集セラレ陸軍給與令海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ縣費俸給ノ支給ヲ停止ス但其額縣費ヨリ受クル俸給ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ヲ支給ス

第八條 兼務ニ對シ別ニ手當ヲ給スルモノハ其就役中俸給三分ノ二ヲ支給ス

第九條 年俸八十二分ノ第十一條第一項ニ準シ毎月之ヲ支給ス

第十條 日給ノ者ハ勤日數ニ應シ其俸ヲ給ス但臨時雇ヲ除ク外勤務ノ日ニ連續スル一般ノ休日及慰勞休暇ハ勤日數ニ算入ス

第十一條 月俸ハ毎月二十一日ヲ以テ支給ノ定日トシ休日ニ當ルトキハ順延トス

日給ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トシ休日ニ當ルトキハ順延トス但十二月ニ限リ二十八日(休日ニ當リ)迄ニ係ル分ヲ其當日支給シ以後ニ係ル同月分ハ翌月ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第十二條 日給ノ者解職ノトキハ當日迄ニ係ル日給ヲ其際支給スルモノトス

●縣立學校醫手當支給方

高知縣訓令甲第八十六號 (明治三十一年五月三十一日)

縣立學校 (高知縣尋常中學校)

一 學校醫ノ手當ハ明治二十七年訓令甲第六十五號縣費支辨條給規則第二條乃至第六條及第九條第十三條

ノ例ニ依リ支給スヘシ

一 學校醫病氣又ハ私事ノ故障ニ依リ出務セサルコト全月ニ及フトキハ其月ノ手當ハ半額ヲ支給スルモノトス但公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及暑中休校ノ場合ハ此ノ限ニアラス

●縣立學校物品取扱規程

高知縣訓令第四百六十九號 (明治三十三年十一月十二日)

縣立學校縣立學校物品取扱規程左之通相定ム

縣立學校物品取扱規程

第一條 物品ハ備付品消耗品ノ二種トス

第二條 備付品ハ根據簿ヲ製シ各其種類ヲ區別登記シ増減アル毎ニ加除訂正スヘシ

第三條 職員以下職務上使用する備付品ハ貸與簿ヲ製シ各其種類ヲ區別シ貸與返納ノ年月日ヲ記入シ使用者ヲシテ其都度調印セシムヘシ

職員以下貸與ノ備付品ハ使用者各保管ノ責ニ任スヘシ

生徒へ貸與スル物品ハ成規ノ手續ニ依ルノ外別ニ貸與簿ヲ製シ各其種類ヲ區別シ貸與返納ノ都度明細記入スヘシ

第四條 消耗品ハ受拂簿ヲ製シ購入支拂ノ都度各其種別ニ從ヒ記載スヘシ

第五條 職員以下職務上使用する消耗品ハ使用者其數量及使用向ヲ記シ學校長幹事ノ認印ヲ受ケ取扱主任者ニ請求スヘシ但門監小使夜中回番等ノ使用品ハ主任書記ニ於テ本文ノ手續ヲナスヘシ

第六條 前條々ノ外詳細ノ手續ハ學校ニ於テ適宜相定メ開申スヘシ

●高知縣尋常中學海南學校豫算決算ノ件

高知縣訓令乙第二百號 (明治三十年十一月四日)

高知縣尋常中學海南學校

其ノ校毎年支經費豫算及精算ハ左ノ書式ニ依リ調製シ豫算ハ前年度二月中(變更ノ場合ハ其ノ都度)知事ニ上申スヘク精算ハ翌年度六月中ニ於テ知事ノ認可ヲ受クヘシ但年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

明治二十五年三月 高知縣訓令第八十九號ヲ廢止ス

明治何 年度 尋常中學海南學校經費豫算

科	目	本年度	前年度	増	減	附記
尋常中學海南學校費	目一 俸給					(附記欄ニハ目節ニ係ル金員算出等ノ事由ヲ記載スヘシ)
	節一 校長俸給					
	節二 教員俸給					
	節三 舍監俸給					
	目二 雜給					
	節四 書記俸給					
	節一 諸雇給					

科	目	本年度	前年度	増	減	附記
臨時費	目三 旅費					
	節三 旅費					
	目一 校費					
	節一 備品費					
	節二 消耗品費					
	節三 圖書印刷費					
	節四 器械費					
	節五 通信運搬費					
	節六 雜費					
	目四 修繕費					
	目五 國庫納金					

明治何年 度尋常中學海南學校經費精算

科目(豫算書式ニ依ル)	精算額	豫算額	増	減	理由
					(本欄ニハ増減ニ係ル理由ヲ記載スヘシ) 由

◎第二十編 雜

○文部省版權所有圖書ノ翻刻出版ニ關スル規定

文部省令第二十二號 (明治二十七年八月十一日)

文部省版權所有圖書ノ翻刻出版ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

第一條 文部省版權所有ノ圖書ハ其ノ種類ニ依リ明治二十七年十二月十一日以後此ノ省令ノ規定ニ依リ廣ク翻刻出版ヲ許可スヘシ但翻刻出版ヲ許可スヘキ圖書ノ名目ハ官報ヲ以テ公告スヘシ

第二條 翻刻出版ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ其圖書ノ名目及翻刻出版シテ發賣スヘキ定價ヲ具シ文部大臣ニ願出ヘシ

第三條 前項及其ノ他此ノ省令ノ條項ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ總テ地方長官ヲ經由スヘシ

第四條 翻刻出版ノ圖書ハ文字ノ大小字體圖書冊數枚數行數及每行ノ字數ハ原本ト異ナルヘカラス但圖書ノ種類又ハ部分ニ依リ本文ノ制限ニ依ラサントスルトキハ見本ヲ添ヘテ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 翻刻出版ノ圖書ハ每冊ニ翻刻出版許可ノ年月日ヲ明記スヘシ

第六條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル者定價ヲ變更セントスルトキハ豫メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 翻刻出版ノ圖書ハ見本三部ヲ文部省ニ差出シ検査ヲ受クヘシ其ノ検査ヲ經タル後ニアラサレハ發行スルコトヲ得ス改版シタルトキモ亦同シ

第八條 翻刻出版ノ許可ヲ得タル後三箇月ヲ經テ出版セザルトキハ翻刻出版許可ノ效ヲ失フ

第九條 翻刻出版者ニ於テ定價ヲ超ニタル價格ヲ以テ其ノ圖書ヲ發賣シ又ハ文部省ノ検査ヲ經タル見本

ト異ナルモノヲ發行シ其ノ他前諸條ノ規定ニ背クトキハ文部大臣ハ何時ニテモ翻刻出版ノ許可ヲ取消スヘシ

第十條 前諸條ニ依ルノ外文部大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ翻刻出版者ヲシテ特ニ契約書ヲ差出サシメ相當ノ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十一條 地方長官ハ其ノ管内ニ行ハル、翻刻出版ノ圖書ヲ監視シ若シ此ノ省令ノ規定ニ背クモノアルトキハ文部大臣ニ報告スヘシ

○外國人居留地又ハ遊歩規程内諸學校へ入學許可

太政官達無號 (明治七年三月十八日)

外 部 省

諸學校へ外國人入學ノ議ニ付別紙文部省伺之趣朱書之通及指令候條爲心得此旨相違候事 (別紙)

文部省伺 (明治七年三月十二日)

外國人民ノ中御國內諸學校へ入學入舍ノ儀申請候節ハ御國人同様ノ取扱ヲ以致許可可然存候此段相伺候也

(指令)

伺之趣入舍ハ居留地内學校ニ限リ通學ハ遊歩規程内學校ニ限リ差許不苦候事

○外國人遊歩規程外諸學校へ入學許可

太政官達無號 (明治七年四月十二日)

外 務 省

外國人御國內諸學校へ入學ノ儀ニ付文部省へ指令ノ趣本年三月中相違候處猶又別紙伺ノ趣朱書ノ通及指令候條此旨爲心得更ニ相違候事 (別紙)

文部省伺 (明治七年三月三十一日)

外國人御國內諸學校へ入學云々伺ノ趣入舍ハ居留地内學校ニ限リ通學ハ遊歩規程内學校ニ限リ差許シ不苦旨御指令ノ條致承知候然遊歩規程外ノ地方ト雖モ其所ニ被相雇寄留能在候外國人民中近傍ノ學校へ通學申請候節ハ同様許可不致候テハ不都合ニ相見候條右様ノ儀有之節へ入學許可候様致度此段再應相伺候也

(指令)

伺之通

○社寺學校病院等へ寄附ノ土地建物等契約ナキ分一般讓渡ヲ以テ處分方

太政官布告第五十四號 (明治九年四月十八日)

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

○文部省直轄學校館等へ圖書物品寄附手續並運搬費支給方

文部省告示第一號 (明治十六年八月二十八日)

從來當省直轄學校圖書館教育博物館等へ圖書物品ノ類ヲ寄附候節ハ管轄廳ヲ經由シ來リ候處自今本人ノ便宜ニ依リテハ直ニ其學校館等へ申出ルモ不苦候條此旨告示候事

但寄附品ノ種類ト本人ノ請願ニ依リテハ其寄附ヲ受クヘキ學校館等ヨリ運搬費ヲ支給スルコトアルヘシ

●新年紀元節天長節參賀及賀表書式

高知縣達第三百八十號 (明治十九年十二月二十八日)

郡 役 所
戶 長 役 場
縣 立 町 村 立 學 校

新年紀元節天長節參賀及賀表書式左ノ通相定ム

- 一 判任官准判任官廳下ニアルモノハ本廳ニ參賀ヲ出張若クハ各所在勤者ハ左ノ書式ニ倣ヒ賀表ヲ製シ當廳ヘ差出スヘシ
- 一 有爵者及從六位以上勳六等以上ニシテ判任官及准判任官等奉職ノ者ハ左ノ書式ニ倣ヒ賀表ヲ製シ式部職ヲ經テ直ニ上ルヘシ
- 一 從七位以下勳七等以下ニシテ判任官准判任官備等奉職候者廳下ニアルモノハ本廳ニ參賀シ出張若クハ各所在勤等ノ者ハ左ノ書式ニ倣ヒ賀表ヲ製シ當廳ニ差出スヘシ

用 紙

式部職ヘ差出スヘキ分ハ大奉書ヲ用フヘシ便宜ニ依リ美濃紙薄葉ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ

當縣ヘ差出スヘキ分ハ美濃紙又ハ大半紙ヲ用フヘシ

謹 奉 賀

新 年 (紀元節) (天長節)

年 月 日

官位勳爵苗字名

●學術取調ノ爲帝國大學等教官ノ派遣請求方

高知縣告示第九十五號 (明治二十四年六月十五日)

學術上ノ事項ニ就キ實地取調等ノ爲帝國大學其他文部省直轄學校教官ノ派遣ヲ請求セントスル者ハ其旨本廳ヘ申出ヘシ但該教官相當ノ旅費ハ請求者ニ於テ負擔スヘシ

●高知縣農學校ニ對シ分拆出願手續

高知縣告示第百一十一號 (明治二十七年九月五日)

本縣農學校ニ於テ一般實業者ノ希望ニ依リ肥料、土壤 農產物製造品並其原料、水及礦物ノ分拆施行可致ニ付望ノ者ハ左ノ手續ニ依リ同校ノ願出ツヘシ

第一條 肥料、土壤、農產物製造品並其原料、水及礦物分拆手續

ヲ記載シ市町村長ヲ經テ農學校ニ差出スヘシ

- 一 試料ノ名稱
 - 一 所在地、產地、若ハ製造者ノ氏名
 - 一 試料ノ價額
 - 一 分析ノ目的(檢定ヲ要スヘキ成分等ヲ記載スヘシ)
 - 一 出願人ノ住所職業及氏名
- 第二條 農學校ニ於テ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ其許否ヲ出願人ニ通知ス
- 第三條 出願人ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ左ニ掲グル分量ノ試料ヲ農學校ニ送付スヘシ但分析ノ目的ニ依リ特ニ分量ヲ増加セシムルコトアルヘシ

- 一 土壤 五百匁
- 一 濃厚、肥料 百匁
- 一 稀薄肥料 五百匁
- 一 水分多キ物質 三百匁
- 一 水分少ナキ物質 百匁
- 一 液類 一升

第四條 出願人ハ分析試料ヲ送付スルト同時ニ左ニ掲ケタル分析手数料ヲ農學校ニ納付スヘシ

一定性分析	一成分	金五 錢
無機成分	同	金貳拾五錢
稀有元素	同	金拾五錢
有機成分	同	金五拾錢
水	同	金五拾錢
一定量分析	同	金參 錢
水分及可燃分	同	金拾 錢
無機成分及全窒素	同	金拾 錢
ポッタース、ソーダ及稀有成分	同	金五拾錢
有機成分	同	金貳拾錢

第五條 校務繁劇ナル場合及器械ノ完備ニ至ルマテノ間ハ物質ノ種類ニ依リ分析ヲ爲サ、ルニトアルヘシ

●常設委員職務規程追加ノ件

高知縣訓令甲第六十九號 (明治三十二年五月四日)

内務部
勸業委員
土木委員
教育委員

明治三十二年^四高知縣訓令甲第七十五號第一條土木委員調査事項ノ次ニ左ノ一項ヲ追加ス
教育委員ノ調査スヘキ事項

- 一 學校ノ廢設ニ關スル事項
 - 二 校舍校地校具体操場及農業練習場ノ供求支持ニ關スル事項
 - 三 教育費ノ豫算ニ關スル事項
 - 四 教育補助費豫算ニ關スル事項
 - 五 其他特ニ指命シタル事項
- 備考明治三十年高知縣訓令甲第七十五號常設委員職務規程ハ不必要ニ付掲載セス

附 錄

○文部省官制

勅令第二百七十九號 (明治三十一年十月二十二日)

文部省官制

- 第一條 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ據クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 公立學校職員ニ關スル事項
 - 二 文部省ニ於テ施行スル教員檢定ニ關スル事項
 - 三 圖書及圖書館ニ關スル事項
 - 四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項
 - 五 高等教育會議ニ關スル事項
 - 六 學校衛生顧問會議ニ關スル事項
 - 七 美術ニ關スル事項
 - 八 博覽會及博物館ニ關スル事項
 - 九 褒賞ニ關スル事項
- 第三條 文部省專任參事官及專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス
- 第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク
 - 專門學務局
 - 普通學務局

- 第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項
 - 二 專門學校及實業學校ニ關スル事項
 - 三 中學校ニ關スル事項
 - 四 美術學校及音樂學校ニ關スル事項
 - 五 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 六 天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項
 - 七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項
 - 八 實業教育國庫補助ニ關スル事項
 - 九 測地學委員會及震災豫防調查會ニ關スル事項
 - 十 學士會院ニ關スル事項
 - 十一 學術會ニ關スル事項
 - 十二 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 師範教育ニ關スル事項
 - 二 小學校及幼稚園ニ關スル事項
 - 三 高等女學校ニ關スル事項
 - 四 盲啞學校ニ關スル事項
 - 五 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 六 教育博物館ニ關スル事項
 - 七 通俗教育及教育會ニ關スル事項

明治三十一年勅令
第四百一十一號
第一號

八 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項

- 第七條 文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ其ノ事務ノ掌ル
- 第八條 文部省ニ專任圖書審查官三人ヲ置ク奏任トス圖書ノ審查ヲ掌ル
- 第九條 文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 文部省ニ專任技師十人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク
- 第十一條 文部省ニ學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス大臣次官又ハ各局長ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條 附 則
本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

○文部省視學官圖書審查官及圖書審查官補任用方

朕文部省視學官圖書審查官及圖書審查官補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
勅令第三百四十五號 (明治三十年十月六日)

文部省視學官圖書審查官及圖書審查官補ハ文官任用令第四條ニ依リ任用スルコトヲ得

(參照)

文官任用令

第四條 特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ別ニ試験ヲ用井ス奏任官ニ在リテハ文官高等試驗委員列任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銜ヲ經テ教育技術官ノ中若クハ試驗委員ニ於テ教育技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

○文部省分課規程

文部省分課規程改正 (明治三十一年六月一日)

文部省ニ於テ分課規程ヲ左ノ如ク改正シ今日ヨリ施行ス

文部省分課規程

第一條 大臣官房ニ秘書課文書課會計課圖書課美術課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

秘書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機密文書ニ關スルコト
 - 二 機密事務ニ關スルコト
 - 三 大臣次官ノ官印及省印ヲ管守スルコト
 - 四 職員ノ進退身分ニ關スルコト
 - 五 職員ノ恩給及退官賜金ニ關スルコト
 - 六 公立學校職員ノ進退身分ニ關スルコト
 - 七 雇外國人ニ關スルコト
 - 八 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スルコト
 - 九 高等教育會議ニ關スルコト
 - 十 學校衛生顧問會議ニ關スルコト
 - 十一 褒賞ニ關スルコト
 - 十二 本省及所轄各部ノ處務規程ニ關スルコト
- 文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スルコト
 - 二 公文書類ノ編纂及保存ニ關スルコト
 - 三 文部省ニ於テ施行スル教員檢定ニ關スルコト
 - 四 統計報告ノ調製並官報掲載ニ關スルコト

五 報告書年報等ノ編纂配賦ニ關スルコト

六 文書ノ翻譯ニ關スルコト

七 各局課ノ主管ニ屬セル事務會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 本省主管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スルコト

二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト

三 公立學校職員ノ退職料及遺族扶助料ニ關スルコト

四 建築營繕ニ關スルコト

五 本課主管ニ屬スル事件ニ就キテノ訴訟等ニ關スルコト

圖書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 教科用圖書ニ關スルコト

二 教育上必要ナル圖書ノ編纂ニ關スルコト

三 參考圖書ノ管理ニ關スルコト

四 圖書館ニ關スルコト

美術課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 美術及文學ノ獎勵保護ニ關スルコト

二 博覽會ニ關スルコト

三 博物館ニ關スルコト

第二條 專門學務局ニ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 帝國大學及高等學校ニ關スルコト

- 二 專門學校ニ關スルコト
 - 三 美術學校及音樂學校ニ關スルコト
 - 四 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト
 - 五 天文臺氣象臺及測候所ニ關スルコト
 - 六 測地學委員會及震災調査會ニ關スルコト
 - 七 學士會員及學術會ニ關スルコト
 - 八 學位稱號及學術技藝ノ保護獎勵ニ關スルコト
 - 九 他課ニ屬セサル事務
- 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 中學校及之ニ準スヘキ各種學校ニ關スルコト
 - 二 文官任用令徵兵令陸軍補充條例ニ依ル學校ノ等位認定等ニ關スルコト
 - 第三課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 實業學校ニ關スルコト
 - 二 實業補習學校及徒弟學校ニ關スルコト
 - 三 實業教育國庫補助ニ關スルコト
- 第三條 普通學務局ニ第一課第二課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
- 第一課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ノ教則校則教員ノ資格設備及生徒ニ關スルコト
 - 二 學齡兒童ノ就學及家庭教育ニ關スルコト
 - 三 幼稚園ニ關スルコト

- 四 通俗教育及教育博物館ニ關スルコト
 - 五 他課ニ屬セサル事務
- 第二課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 師範學校小學校高等女學校盲啞學校其他以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ノ設置廢止經濟職員ノ俸給及處分ニ關スルコト
 - 二 地方視學郡視學及市町村學務委員及學校醫ニ關スルコト
 - 三 教育會ニ關スルコト
 - 四 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ就キ府縣郡市町村ノ行政ニ關スルコト
 - 五 本局ノ主管ニ屬スル事項ニ就キテノ訴願等ニ關スルコト

○官吏懲戒令

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官懲戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
勅令第六十三號 (明治三十二年三月二十七日)

文官懲戒令

第一章 總則

- 第一條 親任式ヲ以叙任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ
- 第二條 官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ
- 一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
 - 二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ
- 第三條 懲戒ハ左ノ如シ

一 免官
二 減俸
三 譴責

第四條 免官吏ノ處分ヲ受ケタル者ハ其官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割若クハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條 勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ委任官ノ免官ハ懲戒委員

會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リテ之ヲ行フ

委任官ノ減俸及勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條 懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴訟ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ルマテ懲戒委員會ヲ停止ス

第二章 懲戒委員會

第一款 總則

第八條 懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條 文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ勅任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款 文官高等懲戒委員會

第十條 文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條 委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ

他ノ勅任文官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ヨリ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條 委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ欠員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條 委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中闕員アリテ補欠ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條 委員長委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

一 其ノ官職ヲ失ヒタルトキ

二 委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條 委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條 幹事ハ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條 委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條 書記ハ勅任官中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條 書記ハ幹事ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第三款 文官普通懲戒委員會

第二十二條 文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一 内閣

一 樞密院

各省
 一 臺灣總督府
 一 會計検査院
 一 行政裁判所
 一 警視廳
 一 北海道廳
 一 府縣
 一 臺灣ノ縣及廳
 一 貴族院事務局
 一 衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條 委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ内閣ニ在テハ法制局長官樞密院ニ在テハ書記官長各省ニ在テハ次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ内閣ニ在テハ賞勳局法制局及内閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第二十四條 委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條 委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條 書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條 書記ハ委員長ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第三章 懲戒手續

第二十九條 本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第三十條 前條ノ要求アリヨルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出席ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ内國旅費規則ニ依リ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第三十一條 委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第三十二條 委員長及委員ハ自己ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條 委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附 則

第三十四條 高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○官吏懲戒例處分心得

今般官吏懲戒例相定候ニ付テハ各長官ニ於テ懲戒處分左ノ通可相心得此旨内達候事
 番外達 (明治九年四月十四日)

官吏懲戒例處分心得

- 一 各長官ハ平生其所屬官ヲ監督シ、若シ過失アレハ懲戒例ニ依リ處分スヘシ
- 一 過失トハ過誤失錯不注意ニ出ル者ヲ云、其怠惰ニ出ル者亦過失トス、其業行修マラスシテ官吏ノ體面ヲ汚ス者、亦過失ニ准シテ懲戒ヲ加フヘシ
- 一 過失ノ事ニ害アル者ハ、重キニ從テ論ス、其事ニ害アリト雖トモ猶改正スヘキ者及ヒ事ニ害アキ

者ハ、輕キニ從テ論ス、但シ其情狀ニ從ヒ輕重ヲ酌量スルハ、專ラ本屬長官ノ所見ニ任ス

一 同僚ノ官吏、共同シテ過失ヲ犯ス者ハ、主任ノ上官（省務ハ省長、寮司務ハ寮司長、廳務ハ廳長、其遺意ヲ以テ處行シ、猶ホ上官ノ許可ヲ得タル者ハ、上下官共ニ均ク其責ニ任スヘシ）下官職權内ノ事ヲ以テ處行シタル者ハ、上官、其責ニ任セス、若シ下官其職權ヲ越エ、專斷處行シタル者ハ重ニ從テ論ス

- 一 所屬官自ラ過失ヲ覺舉シ、進退伺ヲ捧ケルトキハ、本屬長官、之ヲ推糾シ、其過失ニ止マル者ハ、例ニ依リ處分ス、其有心故造ニ涉リ司法官ニ付スヘシトスル者ハ、懲戒例第十條ニ依リ、長官ヨリ之ヲ司法官ニ移ス、司法官若クハ檢事其檢事ヲ若シ司法官其有心故造ニ非ス又律ニ觸レサルコト判スルトキハ、之ヲ本屬長官ニ還付シ、長官ハ仍ホ懲戒例ニ依リ處分スルコトヲ得
- 一 懲戒ニ依リ免職スル者ハ、ニケ年以上ヲ經ルノ後ニ非レハ、再ヒ收用スルコトヲ許サス
- 一 懲戒ニ依ルト否トヲ論セス、凡ソ免職スル者ヲ他ノ官廳ヨリ收用セントスルトキハ、必ス舊本屬長官ニ通牒シテ、其意見ヲ問ヒ答復ヲ得ヘシ
- 一 過失ニ由ラスシテ免職セル者ハ、長官ヨリ旨ヲ諭シ辭表ヲ捧ケシム、其旨ニ違ヒ辭表ヲ捧ケサル者ハ、直チニ免職スルコトヲ得
- 一 舊任中過失アル者、轉任ノ後、發覺、若クハ自ラ覺舉スル者ハ、舊任本屬長官ト通牒シテ新任本屬長官ヨリ之ヲ懲戒スヘシ

○官吏服務紀律

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セシム
勅令第三十九號（明治二十年七月二十九日）

官吏服務紀律

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 第四條 官吏ハ已ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトナ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス
- 第五條 裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得
- 第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文章ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス
- 第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス
- 第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス
- 第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
- 第九條 官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
- 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
- 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

- 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
- 一 官廳下諸般ノ契約ヲ結フ者
- 第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サルハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス
- 第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サルハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス
- 第十四條 浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ
- 第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知り隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レヌ
- 第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○官吏恩給法

朕官吏恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
法律第四十三號 (明治二十三年六月二十日)

官吏恩給法

- 第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス
- 第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス
 - 一 年滿六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ

- 二 傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘヌ退官ヲ許シタルトキ
- 三 廳官廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ
- 第三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ヲ給ス
 - 一 公務ニ因リ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘヌ退官シタルトキ
 - 二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘヌ退官シタルトキ
- 第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラヌ恩給ヲ給ス
- 第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス
- 第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケヌシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痕疾病引續キ重症ニ趨キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ查驗ノ上相當ノ恩給ヲ給ス
 - 一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二箇年
 - 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ亡シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後

三箇年

第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス

明治四年八月以前ヨリ任官セラレタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲グル者退官スルトキハ明治四年七月以前勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第八條 左ニ掲グル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數
二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三 從軍年加算ノ年月
四 非職及休職中ノ月數

五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第九條 左ニ掲グル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ

一 年齡二十歳未滿者ノ在官月數

二 高等官試補及判任官見習中ノ月數

三 郡區書記ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケザル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數

四 御用掛雇等外仕勤仕ノ月數

五 第八條第二ニ掲グル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數

六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數

第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス

第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラザレハ增加セス

第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲グル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス

一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ

第十三條 年齡未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

第十四條 政府ヨリ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス給ヲ受クルノ權ナキモノトス但郡區書記ハ此限ニアラス

商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹

此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得

第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年以内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁

決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關

シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷疾疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪エルト否ヲサルト

第十八條 恩給ハ買賣讓與質入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十四年達官更恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及

停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官更恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日

ヨリ三箇年以内ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

從前ノ命令ニシテ此法律ニ抵觸スルモノハ總テ廢止ス

○官吏恩給法施行規則

官吏恩給法施行規則左ノ通定ム

閣令第三號 (明治二十年七月二日)

官吏恩給法施行規則

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給

請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但屬官廳應ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル

官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在官中履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戶籍調書

但官吏恩給法第十四條第二項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス

第四條 公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ

以テ其實事ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二 醫師ノ診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查駁ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及

恩給年額計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳

シテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分ノ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳

明治二十年七月二日閣令第三號

官吏恩給法施行規則

ヲ經テ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラヌ之ヲ支給ス

(參照)

大藏省令第二十四號 (明治二十三年十月一日)

本年法律第四十三號第四十四號第四十五號ニ據リ恩給及扶助料ヲ受ケルモノハ每期受領ノトキハ本人生存證書ヲ恩給證書ニ添ヘ
送付スヘシ

第八條 恩給ヲ受ケタル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ
第九條 恩給ヲ受ケタル者他ノ地方ニ居住ヲ轉スルトキハ恩給支給ノ月ヨリ三十日以前其旨ヲ新舊居住地
ノ地方廳ニ届出ヘシ若シ此ノ期日ヲ過キ届出タルトキハ其ノ一期ノ金額ハ尙ホ從前ノ地方廳ニ於テ支
給ス

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ各廳間互ニ其ノ者ニ係ル恩給支給ノ受權ヲ爲シ其ノ引繼ヲ
受ケタル地方廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
ハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受ケタルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其
退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公傷ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受
ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲ケル月俸トハ明治四年六月東京淺草米陳ノ平均相場ニ依リ當時
ノ官俸一箇月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲ケル最ト金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

- 第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七
- 第二項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六
- 第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五
- 第四項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四
- 第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三
- 第六項 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

第三章 恩給ノ停止

第十三條 恩給ヲ受ケル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ
宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知ス
ヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給ノ支給ヲ始ム
ル日(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受ケル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘ
キ權利ナキトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ

第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ大藏省ニ通知シ其恩給證書ハ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又復給セシムヘシ
地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付ス
ヘシ

第四章 雜則

附錄 (官吏恩給法施行規則)

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ
地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ
此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ
前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ効力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受クル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ地方廳ハ恩給證書ノ裏面ニ其
事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏省ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル
一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲メヘキ職務ハ區戸長ニ於
テ之ヲ行フヘシ

○文官傷痕疾病等差例

官吏恩給令附則第五條傷痕疾病等差例左ノ通相定候條右ニ據リ取調候儀ト可心得此旨相違候事
第十六號達 (明治十八年三月二十七日)

文官傷痕疾病等差例

公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ官吏恩給令附
則第五條ニ掲クル各項ニ該當スル者ニ等差ヲ付スルコト概ネ左ノ如シ

第一條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏眼ノ官能ヲ併セ癱スル者ハ第四項トス

第二條 兩耳ヲ聾スル者ハ第四項トス

第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼昏昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス

第五條 咀嚼言語ノ兩機能ヲ併セ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス

第六條 咀嚼ノ用ヲ癱スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アル者ハ第五項其
輕キ者ハ第六項トス

第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス

第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第三項若クハ第五項トス

第九條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十條 言語ノ機能ヲ癱スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項
或ハ第六項トス

第十一條 胃腸膀胱等ニ癱管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス

第十二條 腸軟弱尼亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十三條 陰莖或ハ睾丸ヲ全失スル者ハ第三項トス

第十四條 陰莖ヲ半失スル者偏睾丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス

第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用ヲ妨クル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全廢スル者ハ第一項トス

第十七條 一ト肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間何レノ部位ヲ論セス第三項トス

第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第六項ト
ス

第十九條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指癒着若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ

廢スル者ハ第五項トス

第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス

第二十一條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス

第二十二條 一下肢ヲ失スル者ハ股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス

第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ノ作用ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

頂トス

第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス

第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ併セ三指ヲ失スル者ハ第六項トス

第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス

第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス

第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス

第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス

第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

○官吏遺族扶助法

朕官吏遺族扶助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

法律第四十四號 (明治三十三年六月二十日)

官吏遺族扶助法

第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス

一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ

二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ

三 恩給ヲ受ケル者死去シタルトキ

第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ

第三條 實際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受ケル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ

第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス

公務ノ爲メ受ケタル傷痕ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病者ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受ケル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退職官結婚シタル者ハ扶助料ヲ受ケルコトヲ得ス

第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齡二十歳未滿ノ男女子ニシテ未ダ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

明治三十三年六月二十日
法律第四十四號

第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒ノ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ據ル

第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戸籍内ニ在ル二十歳未満又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵當トシテ差押フルコトヲ得ス

第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

- 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
- 二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齡二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
- 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條 在官十五年未滿ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乗シタル額トス但一年未滿ノ在官月數ハ計算セス

第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ因ル

第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏遺族扶助法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則左ノ通定ス

閣令第四號 (明治二十三年七月二日)

官吏遺族扶助法施行規則

第一章 扶助料ノ請求

第一條 官吏遺族扶助法第一條第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歴書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ

第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查覈シ其傷痕若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ廢疾不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ

第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ後見人アルハ其後親族二名親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ與印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添付シ地方長官ニ差出スヘシ

第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

扶助料證書若シハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 納金ノ徵收

第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲クル納金ハ俸給支給ノトキ各廳ニ於テ之ヲ徵收シテ國庫ニ納ムヘシ

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

明治二十七年關令第六號ヲ以テ改正

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地方廳ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル

雜 則

第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戶長ニ於テ之ヲ行フヘシ

○褒章條例

太政官布告第六十三號 (明治十四年十二月七日)

下級 (褒章條例)

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
右奉 勅旨布告候事

(別紙)

褒章條例

第一條 凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ褒章ヲ定ム

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絶ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水産ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二條 奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フコトアルヘシ

第三條 已ニ褒章ヲ賜ハリタルモノ再度以上同様ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

明治二十七年一月六日
第七號勅令
以テ改正

○褒章條例取扱手續

開令第一號 (明治二十七年一月六日)

明治十四年第三百三號達褒章條例取扱手續左ノ通改正ス

褒章條例取扱手續

第一條 褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ
但官吏職務上ノ勞效ニ對シテハ褒章ヲ賜フノ限ニアラス

第二條 賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆覽シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直接シ其他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條 外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト連署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私傭ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條 褒狀ハ高等官及高等官待遇ノ者並ニ從六位以上及勳六等以上ノ者並ニ華族ノ戶主其ノ祖父母父母妻嫡長子孫ノ妻ニハ賞勳局總裁之ヲ授與スヘシ其具申申牒施行ノ順序ハ第一條及第二條ニ同シ
其ノ他ノ者ハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事之ヲ授與スヘシ

第五條 褒狀ヲ外國人ニ授與スヘキトキハ金銀木杯金圓賜與手續第六條ニ依ル

第六條 褒章ヲ有スル者重罪ノ刑ヲ受タルトキハ裁判確定ノ後司法大臣又ハ陸海軍大臣宣告書寫ヲ添ヘ之ヲ賞勳局總裁ニ還付スヘシ

第七條 褒章褒狀ヲ賜フヘキ者具申後授與以前ニ於テ輕罪以上ノ罪ヲ犯シ又ハ死亡シタルトキハ警視總監

監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ速ニ其ノ事由ヲ主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

○褒章ト金銀木杯金圓賜與方

大政官布告第一號 (明治十六年一月四日)

明治十四年十二月第六十三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲ニ金穀財産等ヲ寄附シタル者ハ金銀木杯若クハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコトアルヘシ
右奉 勅旨布告候事

○金銀木杯金圓賜與手續

大政官達第十七號 (明治十六年三月二十六日)

官省院廳 府縣

本年第一號布告ノ旨ニ因リ金銀木杯又ハ金圓賜與手續別紙ノ通相定候條此旨相達候事
(別紙)

金銀木杯金圓賜與手續

- 第一條 褒章ヲ賜フヘキ者ニ金銀木杯又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ
- 定 例
- 第一等 木杯三組 品格ヲ三等ニ分ツ 又ハ金十圓ヨリ多カラス六圓ヨリ少カラス
 - 第二等 木杯二組 品格ヲ三等ニ分ツ 又ハ金五圓ヨリ多カラス二圓五十錢ヨリ少カラス
 - 第三等 木杯一箇 品格ヲ三等ニ分ツ 又ハ金二圓ヨリ多カラス一圓ヨリ少カラス

明治十六年三月二十六日
大政官達第十七號

但賜杯賜金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

特 例

- 第一等 金杯一箇又ハ三組又ハ金圓
 - 第二等 銀杯一箇又ハ三組又ハ金圓
- 第二條 公益ノ爲ニ金穀財産等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

褒 狀

- 十圓未滿 但一圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ
- 十圓以上百圓未滿 但五十圓未滿ハ十圓毎ニ五十圓以上ハ二十五圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 百圓以上五百圓未滿 但三百圓未滿ハ五十圓毎ニ三百圓以上ハ百圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 五百圓以上二千圓未滿 但千圓未滿ハ二百五十圓毎ニ千圓以上ハ五百圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 二千圓以上五千圓未滿 但千圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 五千圓以上一萬圓未滿 但二千五百圓毎ニ品格ニ等差アリ
- 一萬圓以上 但二千五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

金杯三組

金杯一箇

第三條 金銀杯又ハ特例金圓又ハ褒章ト金銀木杯又ハ金圓ヲ併セ賜フ事項ハ賞勳局總裁之ヲ管理スルモ

ノトス

褒狀又ハ木杯又ハ定例金圓ノミヲ賜フハ警視總監府知事縣令管理施行スルモノトス

但勅委任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ竝ニ從六位以上及ヒ勳六等以上ノ者及ヒ華族ノ戶主其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻ニ賜フトキハ第四條ニ準據スヘシ

第四條 金銀杯又ハ特例金圓又褒章ト金銀木杯又ハ金圓併セ賜フヘキ者アルトキハ警視總監府知事縣令ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ之ヲ審査シ賞勳局總裁ニ申牒スヘシ

賞勳局總裁ハ其申牒ニ據テ勅委任官委任官以上ノ待遇ヲ受クル者竝從六位以上及勳六等以上ノ者及華族ノ戶主其祖父母父母妻嫡長子孫及其妻ニハ之ヲ直接シ其他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シ警視總監府知事縣令ヲシテ之ヲ傳達セシム

第五條 金銀木杯又ハ金圓又ハ褒狀ヲ受クヘキ者ニシテ其未タ授與セサル前重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ授與セス

第六條 外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀褒詞ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ内國人ノ例ニ準スト雖モ公使館員及帝室ノ貴賓ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申牒シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ

明治二十七年閣令第八號ヲ以テ改正

明治廿四年閣令第一號ヲ以テ加

明治三十二年八月十七日印刷
明治三十二年八月二十一日發行

第九十號

高知縣高知市公園圖書館内

編纂者 高知縣教育會

高知縣土佐郡下知村常盤町九番地

代表者 田所茂吉

高知縣高知市本町上一丁目七十一番地

發行者 岡村直太郎
兼者 岡村直太郎
大阪府南區谷町九番地岩井橋辰生岩井橋次郎

發行所 高知市本町上一丁目七十一番地 岡村書店

廣告

筆墨販賣商

并學校用品

種崎町 生花堂

諸紙輸出商

學校用品販賣

高知市山田町

商店

廣告

諸紙筆墨

學校用品商

高知市はりまや町 桑谷脇紙舖

時計賣買 時計修理處

私儀多年今村時計店ニ於テ本職ニ從事致居候處今般同店西隣ニ開業仕候間倍舊御用被仰付度奉希候
高知市山田町 五十番邸 磯部楠松

外書籍卸賣廣告

高等

小學校教科書

其他學校用品

拾圓以上ハ五分別
百圓以上ハ一割別

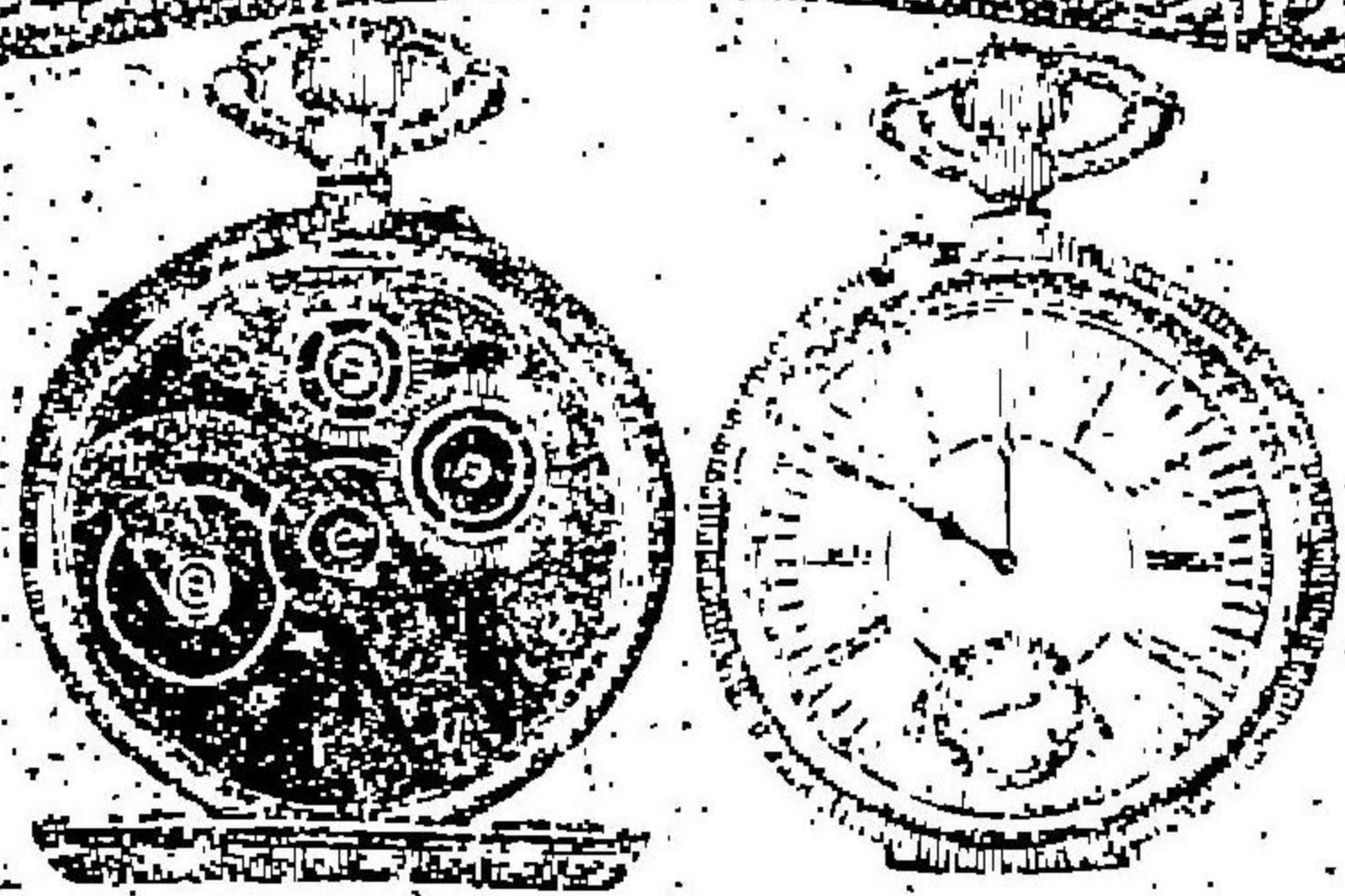
右品々極安價去以テ販賣仕候間多クニ抱テテ御購求ノ程奉希候

高知市木町上二丁目

同 安藝寺町

第一 因村書肆
第二 因村書肆

正 佛蘭西國時鐘



保險非常大勉強
今般特別註文三係ル巴里最
新流行實用時計數種到着

和洋振時
計種々澤山
金銀附屬品
種々
保險附
安價修履

高知市丸形二百番地
各町專業店
栗尾卯之助

學校用品式商

并二和洋小間紙類

各町村學校定筆發賣處

東京寶文堂製筆特約舖

直乾印肉合資會社特約舖

高知市種崎町新聞社前

多誠棧堂 杉村龜松

洋服網進

并二附屬品種々

高知市種崎町十番新聞社前

高知市丸形二百番地
宗圓洋服店

理化學器械 風琴
練器 樂器類

高知市本町三丁目
文具店 瀨戶善助
椅子製造 同町 支店

製本販賣廣告

諸學校用本 其他參考書各種

大阪市東區南久太郎町四丁目八十六番屋敷

武田福藏

大販賣店 高知市本町 岡村第一書肆

同 安藝本町 岡村第二書肆

筆墨製造廣告

一尋常二學科愛石先生撰定筆 一本二付 金二錢

一尋常四學科 撰定筆 全 金二錢五厘

一高等三學科 撰定筆 全 金三錢

一同等四學科 同 全 金三錢五厘

其他各種

大阪南區順慶町二丁目五十五番地

製造元 廣岡今光堂

販賣店 高知市本町 岡村第一書肆

同 安藝本町 岡村第二書肆

此外筆墨各店均販賣之

